

施設稼働率及び収益を上げるための対策

八代市文化ホールの稼働率（平成 28 年度～平成 30 年度 3 か年平均）は、厚生会館が 36.97%、鏡文化センターが 23.56%、桜十字ホールやつしろが 57.97%、八代市公民館が 20.87%となっており、中心市街地にある施設の稼働率が高い傾向にある。

また、指定管理者制度導入施設である桜十字ホールが最も高くなっている。

公共ホールにとって稼働率を上げるということは本来の目的である市民の文化水準の向上に加えて、施設運営の収支にも影響することから、重要な課題となっている。

八代市の取り組み

1. 集客に向けた自主文化事業等の工夫・周知

（1）稼働率・収益向上のための工夫

- ・自主文化事業の選定については、関係機関からの情報収集により、集客や収益も期待できる事業、ジャンルに偏りがないように選定・企画を行なっている。
- ・各事業の来場者にアンケートを実施し、催物の利用者ニーズの把握につとめている。
- ・子供向け催物の大口購入のお客様には団体割引等の措置を実施。
- ・厚生会館ではホワイエを使用して演奏や声楽などのミニコンサートを実施し、気軽に来館し、鑑賞できる機会を提供した。

（2）稼働率・収益向上のための向けた広報活動

- ・市の広報紙、市のホームページ、エフエムやつしろ、ポスターチラシ等による広報宣伝を行っている。
- ・上記の対策を講じても効果がない場合は、新聞への折り込みチラシや看板作成、スピーカー搭載の公用車にて宣伝活動を実施。
- ・子供向けの催物については保育園担当課を通じてチラシを送付、保育協会等の会議に出席し、宣伝を行っている。

2. 利用しやすい施設にするための検討

(1) 予約システムの導入検討

本市ホール施設については空き状況はホームページで確認できるが、予約まではできず来館や郵送による手続きとなっている。

そのため、利便性の向上に向けてオンライン決済を含めた施設予約システムの導入検討を行っている。

(2) 利用者ニーズ拡大に向けた検討

桜十字ホールやつしろの会議室等は営利目的での利用も可能となっており、その場合の利用料は10割増しとなることから収益力も高い。

桜十字ホールの会議室等の多様な利用者ニーズへの対応はホールの稼働率・収益向上にも繋がっていると思われることから、それ以外の施設でも営利目的の利用拡大に向けての検討を行っている。